

プレスリリース

G7 気候・エネルギー・環境大臣会合共同声明の 「日本語訳」は改ざんされていた！

オンライン記者発表 5月15日(月) 11時~12時

参加申込みサイト <https://forms.gle/z1RiNZBAGWxQ4F6h8>

記者発表の内容

G7 環境大臣会合による汚染水海洋放出・汚染土再利用の承認を装う改ざんされた共同声明「日本語訳」の撤回を求める 140 を超える団体の連名申入書を 12 日提出。
申し入れ書の紹介：温品（ぬくしな）惇一・放射線被ばくを学習する会・代表
日本語訳にかんする補足説明：黒川眞一・高エネルギー加速器研究機構 名誉教授
G7 環境大臣会合への取組 平井 玄・新宿御苑への汚染土持ち込みに反対する会
柳田美智子・原発廃炉金属の再利用を監視する市民の会

質疑応答

主催：放射線被ばくを学習する会

連絡先：090-3577-4844（温品惇一 ぬくしな） anti-hibaku@ab.auone-net.jp

「歓迎」を狙った日本政府：[2.22 朝日新聞デジタル](#)

4月のG7気候・エネルギー・環境大臣会合に先立つ2月1~3日、都内での実務者レベル会合などで、日本政府は汚染水の海洋放出や汚染土の再生利用を「歓迎する」などのお墨付きを得るべく、各国に働きかけていた。

ドイツ・レムケ環境大臣「歓迎しない」：[4.16 朝日新聞デジタル](#)

西村（経産大臣）は4.16記者会見で「処理水の海洋放出を含む廃炉の着実な進展、・・・我が国の透明性のある取り組みが歓迎される」と説明。隣で聞いていたドイツのレムケ環境・原子力安全相は「・・・**処理水の放出を歓迎するということとはできない**」と反発した。「（西村経産大臣は）会見後、報道陣に『私のちょっと言い間違えて、『歓迎』に全部含めてしまった』と釈明。処理水の放出については『IAEAの独立したレビューが支持された』と訂正した。」ところが、この時の「[日本語訳](#)」自体がすでに改ざんされていた。

改ざん 1 「廃炉及び福島復興に不可欠な ALPS 処理水の放出」

[共同声明](#)の「日本語訳」71項に「我々は、同発電所の廃炉及び福島復興に不可欠である多核種除去システム（ALPS）処理水の放出が・・・」と書かれている（赤字は引用者による）。記者会見の席上で「処理水の放出を歓迎するということとはできない」と明言したドイツのレムケ環境・原子力安全相が同席していた会議で、「（ALPS）処理水の放出が廃炉及び福島復興に不可欠」などという共同声明が合意されるはずはない。

文法上も「廃炉及び福島復興に不可欠」なのはALPS処理水の放出ではない。

改ざん2「オープンで透明性をもって、国際社会との緊密なコミュニケーションをとりながら進められている、(除去土壌の再生利用などの) 取組」

71項最後の文章は、「我々は、日本が、これらの進行中の取り組みを、オープンかつ透明に、国際社会と緊密に連絡をとりながら行うよう奨励する。」が本来の訳である。「日本語訳」は動詞、形容詞などを修飾する副詞句を、名詞を修飾する形容詞句として翻訳している。これも明らかな改ざんである。

環境大臣、経産大臣に改ざん日本語訳の撤回を求める申し入れ書

[中間集約申し入れ書](#)

[改ざん部分対照表](#)

140 超団体の

5月12日11時提出予定なので、政府への取材は提出後にお願いします。

放射線被ばくを学習する会

放射線被ばくを学習する会

2013年8月以来、東京都内の公共施設で毎月、被ばく学習会を開催してきた市民団体。コロナ禍以降はオンライン被ばく学習会に移行、全国から、欧米など海外からの参加者も多く、最近では200名を超えることも珍しくない。5.19 オンライン被ばく学習会で88回目を迎える。